

金沢市の子育て支援に関する実態調査（3）

— 0, 1歳児を持つ母親の支援等に関する自由記述の分析—

Investigation into the actual situation of child care support in Kanazawa (3)
—An Analysis on Essays Written about Supports for Mothers with 0 and 1-year-old Children—

北川 節子
Setsuko Kitagawa

〈要旨〉

本研究は金沢市の0, 1歳児をもつ母親に対して行ったアンケート調査の自由記述を分析したものである。自由記述の設問は「日頃の子育てについて思うことや子育て支援の要望について自由にお書きください」とした。回答者498人中206人（41.4%）から383の意見が寄せられた。分析した結果、子育ての楽しさ・子育ては大変・虐待等の「子育てに関する意見」は70、金沢市の子育て支援は充実している・金沢市の子育て支援は不十分・情報提供・子育て支援の充実を期待・支援のアイデア・子育てしやすい社会を期待等の「子育て支援に関する全体的意見」は108、経済的援助と保育所・幼稚園のほか17の支援について様々な意見が述べられていた「個々の子育て支援に関する意見」は205であった。この意見を基に金沢市の子育て支援の利用者の現状と支援の在り方を検討した。

〈キーワード〉

子育て支援 0歳児 1歳児 自由記述

1 はじめに

同研究（1）ⁱでは乳児を対象とする子育てサロンを利用する母親から聞き取りを行い、望ましいサロンの在り方を検討した。さらに金沢市内に居住する0, 1歳児をもつ母親を対象にアンケート調査を実施、同研究（2）ⁱⁱでは調査対象の属性の特徴及び情報収集と支援の利用について述べた。その結果、次のことが示唆された。

- ①0, 1歳児を持つ母親の約60%は日中1人で、また約40%は初めての子を養育している。さらに金沢市の居住3年以下、出身地が金沢市以外の母親は34%であることから0, 1歳児を持つ母親への子育て支援が特に重要である。
- ②子育て支援を認知した方法は母子手帳、出生届けの際であり、これらが重要な機会であることから、これらの機会を活用した行政側からの積極的な情報提供が必要である。
- ③よく認知され、かつ利用されている支援は「遊びの場・集いの場」「児童手当」であり、理由も子どもや親の交流、気分転換が多い。親子の交流の場の利用が多く0, 1歳児の特徴を考えると、今後は自由に参加できる交流の場を充実させていく必要がある。

今回は自由記述について分析を試みる。自由記述には情緒的な意見も多くあったが、母親の意見、要望、考えなど

を把握することができる貴重なデータであり、できるだけ生の声を活かすことを考慮してまとめた。

2 研究方法

2-1 調査対象

金沢市内に居住する0, 1歳児を持った母親

2-2 調査期間

2008年8月5日～10月21日

2-3 調査方法

調査用紙は先行文献を参考に研究者が独自で作成した。調査内容、表現については金沢市福祉健康局こども福祉課の職員と打ち合わせを行った。

調査内容は属性、子育て支援情報、子育て支援の利用、子育て意識とし、最後に自由記述の欄を設けた。

調査は0歳児は3カ月児健診会場、1歳児は1歳半児健診会場で行った。調査用紙は健診の待合の時間帯、または終了時に母親一人ひとりに調査の目的、方法を説明しながら配布した。回収は研究者あてに無記名による郵送とした。

2-4 倫理的配慮

回答は研究以外には使用しないこと、結果は統計的に処理されるので個人が特定されないことを書面で説明した。

3 結果

3か月児健診では455人、1歳半児健診では537人、計992人に配布、回収数は502人、有効回答は3か月児246人、1歳半児247人、その他5人、計498人、有効回答率は50.2%であった。

調査用紙の最後に「日頃の子育てについて思うことや、子育て支援の要望などをご自由にお書き下さい。」と自由に記述できる設問を設けた。回答者498人のうち206人(41.4%)の人から389の意見が寄せられた。それらを分類した結果、「子育てに関する意見」「子育て支援に関する全体的意見」「個々の子育て支援に関する意見」に分類された。以下、詳細を記述する。

3-1 子育てに関する意見 (表1参照)

〈子育ての楽しさ〉は【代わりにしてくれる人がいても母親に勝る存在はない】【どんな仕事よりお母さん業が一番大変であり、一番いい仕事だと思う】などのように「子育てはやりがいがある」、【一時保育も頻繁に利用させていただいたおかげで、夫婦とも県外出身者ですがとてもうまく息抜きできていると思います。夫も父親教室に積極的に参加し、金沢市のサービスのお陰でとても充実した毎日が過ごせています】【夫の両親が近くに住んでいて、自分の両親も近くにいて心強い。たくさん友人とのやりとりでストレス解消して毎日頑張っています】のように「助けられて子育てをしている」、さらに子育てによって「自分も成長できる」という意見があった。

表1 子育てに関する意見

大項目	中項目	数
子育ての楽しさ	子育てはやりがいがある	13
	助けられて子育てをしている	5
	自分も成長できる	3
子育ては大変	仕事との両立が困難	8
	子育ては不安・辛い	11
	余裕がない	10
	夫の協力を期待	2
虐待	子育てが分からない	4
	虐待をしている・しそうだ	6
	虐待は信じられない	2
その他	地域に子どもがいない	2
	その他	4

しかし〈子育ては大変〉という意見も多くみられた。【出産までは正社員として22時ごろまで働いていたが、出産後は受け入れ先がなく、女性がキャリアを中断しなくてはならない。このような状況では子どもを生みにくいです】【仕事を持っていると、子育てをするのは本当にやりにくく感じてしまう。(中略)育児休業中のママが休みやすいように中小企業の対応をよくすべき】のように「仕事との両立が困難」、【子どもが小さい時は今しかないかけがえのない時間だと思っています。でも答えがない分、これでいいのか、自分は正しいのかと思うことも多々あります】【初めての育児とあって、どのように育てていけばいいのか不安】のように「子育ては不安・辛い」、【仕事と育児で日々追われている】【子どもが2歳になってから幼稚園に入るまでが一番手がかかるので休息がほしいと周りのみんなが言っている】のように「余裕がない」、「夫の協力を期待」、しつけ等の「子育てがわからない」という意見も見られた。

〈虐待〉の記述もみられ、【子どもを虐待する親なんて信じられないと思っていたが、初めて子どもをもって思うようにいかない歯がゆさや精神的・体力的に疲れ、そうってしまう人の気持ちが分からなくもなく、もしかすると紙一重かもしれないと感じた】【以前、子どもに手をあげてしまったことがありとても落ち込みました。育児がうまくいかない時、経済的なことが積み重なったためだと思う】のように「虐待をしている・しそうだ」という記述がみられた。反面「虐待は信じられない」という意見もあった。

その他には「地域に子どもがいない」などの意見もあった。

3-2 子育て支援に関する全体的意見 (表2参照)

子育て支援全体については【県外から転勤してきましたが、金沢市は子育て支援がとても充実していると思います】【金沢市は他の地域に比べると子育て支援に恵まれている方だと思います。少しずつですが、子育てしやすいようになってきていると思います】のように〈金沢市の子育て支援は充実している〉という意見が多くみられた。

反対に〈金沢市の子育て支援は不十分〉という意見もあった。【子育て支援は色々あっていいのだが、実際利用するにはまだ少し敷居が高く感じる】【色々な支援は本当にありがたいが、気軽さがあまりないので手を出しにくい。相談にも行きたいけど、いつしているのかなどもう少し耳に入るように連絡してもらえるとありがたい】など「支援は利用しにくい」や、【金沢市は子育て支援というが、実際の現場の温度差や保育士の体制に疑問を抱いている】【金沢市の子育て支援はいろいろある方だと思うが、いまいち実際にそぐわない気がする。一時保育やファミリーサポート等は利用の手続きに手間と時間がかかり、いざ利用したいという時に使えなかったり、面

倒くさいから使う気がなくなったりする】のように「支援と実態の差」を指摘する声や、利用する人と利用しない人の「利用者の差」が大きいという意見があった。

【行政が提供するものは9：00～17：00の平日が主で、こちらから相談に行かなければならないし、その場は確かに親切に答えてくれますが、その後の経過やフォローとなると近親者にはかなわない。行政がどれだけサポートしても限度があるというのが実感】【本当に困った時に役所や保健師に相談しても「大変ですね」の感想で終わった時は、「子育て支援」をあたかも頑張っているといっている金沢市をどうかと思ったことがある。表面的なものではなく、本当の支援を考えてほしい】等の「行政対応は不十分」と訴える声もあった。

表2 子育て支援に関する全体的意見

大項目	中項目	数
金沢市の子育て支援は充実している	支援は利用しにくい	5
	支援と実態との差	7
	利用者の差	1
金沢市の子育て支援は不十分	行政対応は不十分	4
	情報提供は不十分	8
	情報提供の方法	10
情報提供	特別な家庭への支援	5
	子育て支援の充実を期待	
子育て支援の充実を期待	母親への支援	10
	職場での理解と支援	13
	公共施設・スーパーでの支援	6
支援のアイデア		16
子育てしやすい社会を期待		4

〈情報提供〉に関しては、【子育て支援に関する情報が少ない】【支援について知らないことが多すぎるので、もっと情報を流してほしい】などの「情報提供が不十分」や、【「金沢子育てお役立ちウェブ」をもっと見やすく情報を多くしてほしい。例えば広報に掲載されているイベントや募集もトップページにあれば情報を得やすいと思う】【情報をわかりやすくまとめて、どこで何をしているのか、短時間で理解できるように（色つき用紙にカラー、イラスト付きで）、自宅に1か月に1回は情報提供してほしい】のように具体的な「情報提供の方法」を示している人もいた。

〈子育て支援の充実を期待〉する意見として、【子どもが2、3人になると1人で育てるのは難しく、家族に助けてもらえない事情の時、地域の子育て支援に気軽に頼れると助かる】【双子以上のサポートをもっと考えてほしい】など、「特別な家庭への支援」を望む声がある。【分からないことが沢山あるので、低月齢でも参加しやすいイベント等があると、同じ月齢のママたちと友達になれそうなのであるといい。ママ友をつくってお互いに情報交換したり励まし合って育児をし

たい】などの「母親への支援」を期待する声や、【家族形態や夫の仕事の状況等が子育てに与える影響はとても大きい。（略）行政のサービスは限界があるのでインフォーマルな環境が整うことを望む。例えば夫がもっと育児に協力ができるような職場環境の整備など】【フレックスタイムや時短も書類ではなく口頭でお願いするのはまだまだ言いにくい感じ。年配の人にはわかってもらえない】など「職場での理解と支援」が必要という意見が見られた。スーパーマーケット、公共施設での保育室、授乳室の設置を希望する「公共施設・スーパーでの支援」を期待する声もあった。

今後期待する〈支援のアイデア〉も色々書かれていた。リトミック、手遊び、ベビーマッサージ、ダイエツトヨガ、産後1年間夕食ケータリング、母子手帳に子育て支援お試し券を添付、子連れのためのタクシー補助券等であった。

【もっと子育てしやすい社会になると助かる。今のままだと子どもたちがかわいそう】【社会全体が子どもを育てやすい雰囲気にならないと、少子化は進む一方のような気がする】等の〈子育てしやすい社会を期待〉する意見もあった。

3-3 個々の子育て支援に関する意見（表3参照）

個々の支援に関しては〈経済的援助〉〈保育所・幼稚園〉および17の支援について意見が書かれていた。

〈経済的援助〉については、「医療費」に関する意見が最も多く、【医療費1000円ではなく、他の市町村と同様無料としてほしい】【小学6年生まで医療費無料】などの医療費の無料化と、【医療費を後日返金ではなく、窓口支払いで無料にしてほしい】【医療費の助成制度をもっと簡単にしてほしい】などのシステムに関する意見があった。「経済的支援」全般についての意見は、【生ぬるい支援をするより、保育料を下げるとか、金銭的に助けてくれる方がよほどありがたい。金銭的に余裕があれば、もう少しゆったりとした育児ができると思う】【もっと子どもがほしいですが金銭的には今が限界。金銭的な支援があれば、私だけでなく皆さんも子どもの数を増やすと思う】などがあつた。

「児童手当」については所得制限の緩和、増額希望が「妊婦健診費・出産費」は妊婦健診費の軽減、出産費の保険適用、休日出産・異常出産の個人負担分の補助、「予防接種」は自費の予防接種の助成を求める意見があった。その他「減税措置」「子育て費用補助」の意見があった。

〈保育所・幼稚園〉に関しては「入所」に関する意見が多くみられた。年度途中の入所、近隣保育所への入所、就職活動のための入所、専業主婦も利用できる短時間入所等の意見があった。「保育料」に関しては、無料化、減額などの意見があった。「保育時間」については、土曜日も通常通りの保育を希望する意見や、仕事ができるように保育時間の延長を希望する意見があった。さらに未就園児が遊べる

日の増加や、平日の日中に自由に利用できるセンターの設置等、保育所に多様な機能を求める意見が見られた。

〈一時保育〉に関しては、【一時保育も確実に預けられるところがほしい。親が急病になった時など、何日前に言わないと預けられない所が多すぎる】【保育園の都合(イベントなど)で受け入れ不可と言われるのが不満。もっと利用しやすいようにしてほしい】等の「確実な利用」を希望する声があった。【一時保育がどこもいっぱい利用できない時がある】のように「受け入れを増やす」対策をたててほしいとの声もあった。【急な用事で利用したくても、当日だと受け入れてもらえないので、受け入れてほしい】【仕事をする前の準備期間(面接や研修など)に保育園の一時預かりを利用しようとしたが、なかなか預かってもらえなかった。本当に預かってほしい日に預かってもらえないと困る】など「様々な利用の理由」があり、確実に預かってもらえることを希望する声があった。【一時保育についてですが何回も電話で問い合わせをしても一度も見てもらえなかった。保育園によると人が足りないとか、1歳未満児は…と言葉を濁す回答ばかりだった。リフレッシュしたくてわざわざ券を市役所まで取りに行ったのに全く意味がなかった】【一時保育サービスは2歳までの利用ではなく3歳までがよい。2歳から3歳までが一番大変だった。全くリフレッシュできず、今思えば子どもに厳しくしすぎていたように思う】など「年齢制限」の問題を指摘する声があった。一時保育は職員の手が回っていないや拠点が少ないという「施設・職員の増加」を求める声や、案内がわかりにくいなどの「案内・説明」に関して指摘する意見もあった。

〈病児保育〉については【病児保育のことなど知らなくて損をしている人も多いと思う】【病児保育の充実】など周知方法の改善や制度の充実を求める声があった。

〈相談〉については【初めての子で病気をもって生まれたのですが、そういった子育てに関する相談ができる場があるといいなと思いました。】【子育てホットラインは終了時間が早すぎる。マタニティブルーでどうしようもなく不安になるのは夜中の授乳の時などなので、17:00などで終了しては全く役に立たない。24時間にすべき。役人仕事でしているようにしか思えない。】など充実を求める意見があった。

〈子育てサービス券〉は【2歳までではなくこれ以降も使えるようにすべき】など利用期間を3歳以上や4歳、6歳までに延長を求める意見が多くあった。また【子育てサービス券は、改めて申請しなくても、出生届と交換で渡してほしい】【自分は子育てサービス券を使い切ったが友人は1度も使わなかった。第1子の場合預ける機会や勇気がないので使わない。気軽に使えることができれば助かる。ニーズに応じて支給額を増やしてほしい】など「システムの充実」を求める意見もあった。

表3 個々の子育て支援に関する意見

大項目	中項目	数
経済的援助	医療費	16
	経済的支援	8
	児童手当	6
	妊婦健診費・出産費	6
	予防接種	2
	減税措置	1
	子育て費用補助	3
	入所	16
保育所・幼稚園	保育料	11
	保育時間	4
	保育所に期待	3
	評価	1
	その他	5
	確実な利用	11
一時保育	受け入れを増やす	3
	様々な理由の利用	5
	年齢制限	3
	施設・職員の増加	2
	案内・説明	2
	病児保育	7
相談	利用期間の延長	12
	子育てサービス券	8
	システムの実用 役に立つ	1
ファミリーサポートセンター	3	
育児教室	4	
子育て広場	4	
遊び場	6	
子育てサロン・夢ステーション	4	
新生児訪問	4	
ママヘルパー	4	
子育てサークル	2	
公園	6	
大規模施設	3	
健診	サービスを期待	3
	スタッフ対応	4
	受けやすい健診に	4
	予防接種日	1
小児医療	4	
プレミアム・パスポート	利用人数	7
	制度の充実	2

〈ファミリーサポートセンター〉については【「会員相互の助け合い」を願いましたが、私の住むところ(金沢市郊外)には会員はいないのでサポートできませんと断られ、結局支援を受けたいのに何もしてもらえませんでした】【一応ファミリーサポートセンターに入っているが、やむをえない用事があ

るときに一度預けたことがあるだけで、やはり特別な用がないと子どもを他人に預けるのは抵抗がある】などの意見があった。

〈育児教室〉については【福祉健康センターで行われる「すくすく育児教室」や「歯っかり食べよう教室」が午後から開催のため上の子の幼稚園の時間を過ぎてしまうため出席できなかった】【妊娠中に病院で行われるマタニティクラスのように、産まれてからでは余裕がないので妊婦の時に教室を開いて欲しい】のように時期や時間帯の希望が記入されていた。

〈子育て広場〉については【子育て支援の広場（子ども広場など）は日曜日、祝日はお休みなのであまり利用できません。できるなら日曜など（月1、2度でも）空いている広場があるといいな時々思います】【駅西の福祉センター2階を訪ねましたが、常駐の職員の方がどの人か分からず、どうしていいのか分からず帰ってきました。新しい人の入りやすい体制を作っていただきたい】など利用日の拡大、職員の対応に関する指摘があった。

〈遊び場〉については【徒歩圏内に利用しやすい遊び場（屋内）がほしい】【休日に家族そろって遊べる室内の施設が少なく思うのでもっと増やしてもらえたら良い】【福祉センターや教育プラザ、図書館といった公共の施設が街の中心に偏っていて、8号線より海側にはないので子どもが遊べる施設が欲しい】など、季節的に外遊びができない地域性の問題もあるためか屋内遊び場を希望する意見があった。

〈子育てサロン・夢ステーション〉については、【子育てサロンや子ども広場などで同世代のママや子どもと同月齢のママと関わりたいと思うが、3ヶ月児を連れての車の移動等が大変でなかなか出られないし、もっと近くにあればと思う。またそのような工夫もあまり目に触れることがないような気がする】【子育てサロンが月2回しかないので日数を増やして欲しい】など設置や開催日を増加してほしいとの意見があった。

〈新生児訪問〉は【外出したいが小さい子どもがいると準備がなかなかできず結局1日家にいてストレスがたまっています。手探りで育児をしている感じなので、専門の職員の訪問など新生児の時以外でもできればうれしい】【もっと家庭訪問の回数を増やして欲しい。不安に思うことは電話などで話すよりも、実際の子どもと家庭環境を見て聞いてもらった方が、分かってもらえると思う】など専門職の家庭訪問を希望する意見があった。

〈ママヘルパー〉については【産後ママヘルパーを利用したかったが1週間前から予約しないといけないというのは長すぎた。私が高熱を出した時も本当は来てほしかったが、1週間前というのがあって電話もできなかった。緊急対応があってもいいと思う】【産後ママヘルパーサービスは産後2ヶ月までですが、2人子どもがいると色々大変だったので、もう少し期間が延びると嬉しいです】などシステムの充実を求める

意見があった。

〈子育てサークル〉については【サークルも少なく、申し込んだら定員が多いと断られた。自分でサークルをしたいと思い、A公民館に問い合わせをしたところ「文化的に向上するものでなければ利用できない。お母さんたちの寄り合いは迷惑」とはっきり言われた】との意見があった。

〈公園〉に関しては、【金沢には公園が少なく（他県には、住宅の中には必ず徒歩で行ける公園が2～3ヶ所はあります）、子育てをする母親にとっては住みにくい環境だと感じます。公園があっても、そこに設置されている遊具が、幼稚園に入る前の子どもにとって全く適さないもので、かえって危険なものもあるほどです】【今住んでいる町には子どもが遊べる公園がないので、近くに児童公園がある人を羨ましく思う】と公園の充実を求める意見があった。

その他【福井エンゼルランドや富山子どもみらい館のような大型の子育て支援はなぜ石川県にはないのでしょうか？ショッピングセンターばかりはもういりません】など福井県を参考に子どものための〈大規模施設〉を希望する声がいくつかみられた。

〈健診〉は3か月児、1歳半児、3歳児のほとんどが受診し、行政サービスを受ける貴重な機会となっている。本調査用紙は健診会場で配布したためか健診に関する記載が多くみられた。【支援センターなどに行くのには勇気がいり、なかなか一歩が踏み出せないこともあるので、できれば健診の際などに同じ月齢の友達ができるような機会を設けてもらえたらと思います】【定期健診の時などに子育ての親子が互いに触れ合う（情報交換できる）機会があってもよいかもしい】など健診の機会に「サービスを期待」する意見や、【保健センターのスタッフは母親の小さな疑問や悩みにも軽く流さずに、ある程度話を聞く姿勢を持つことを心がけてほしい】【健診時の保健センターの人の態度、健診の流れなども悪く、もう少し明るくならないものかいつもイライラします】などの「スタッフ対応」の問題、【団体での健診は土曜日も拡大してほしい。健診の日程が1日のみと決められているが、仕事は休みづらい】【福祉健康センターの健診は車がないといけない。公民館や児童館で健診をしてほしい】など日程・健診場所の工夫など「受けやすい健診」にしてほしいとの意見もあった。

〈小児医療〉に関しては、【小児科の数が少なく待ち時間が長い。その間に他の病気がうつる心配がある】などさらなる充実を求める意見があった。

石川県の事業である〈プレミアムパスポート〉については【プレミアムパスポートの制度は、子ども1人からでも利用できるようにして欲しい。富山県では1人からでもOKらしいです】の様に「利用人数」の制限をなくしてほしいとの意見が多くみられた。また【プレミアムパスポート協賛店の増加】

や両親とも持てるように「制度の充実」を求める意見があった。

4 考察

この調査は2008年に行ったものであり、それ以降の子育て支援に関する状況が変化したことを考慮する必要がある。厚生労働省は緊急の少子化対策ⁱⁱⁱとして2009年10月から妊婦健診の公費負担を5回から14回に拡充、さらに出産育児一時金を38万円から42万円に引き上げ、各医療保険者から直接病院に支払うシステムに変更した。また金沢市独自の事業である子育て夢ステーションも設置箇所が増加、さらに近江町交流プラザも新たに設けられるなど子育て支援政策は拡充の方向にある。また政権交代により「子ども手当」が政策としてもちこまれるなど、子どもを持つ保護者にとってより子どもを育てやすい環境となることが期待される。

子育てに関する意見からは0,1歳児を持つ母親は、仕事の両立や不安・忙しさと闘いながら子育てに真剣に取り組んでいる様子がうかがえる。また金沢市の子育て支援は充実していて満足している意見が多くみられる。

しかしさらに子育て支援を充実させていくための提言を自由記述の分析から行いたい。

子育て支援情報提供方法については不十分であるとの指摘や、様々な情報提供が提案されている。これらから情報誌やネット情報以外にも新聞折り込み広告、町内回覧板、保健センター窓口などを利用した各家庭へのわかりやすい情報提供が必要であることを提案したい。

次に支援利用の敷居が高い、気軽に利用できないという指摘がある。少しでも気軽に支援を利用してもらうためには、母子健康手帳に産後ママヘルパーの派遣を1回程度利用できる子育てサービス券を添付して、支援利用について抵抗感を少なくする取り組みも必要ではないだろうか。

子育て相談は内容ごとにダイヤルが異なり、利用時間は9時～21時となっている。どのような内容でも相談をうけ、さらに24時間対応することはできないだろうか。ほとんどの母親は一所懸命に子育てをしており、やむを得ない場合に電話相談をされると考えられる。その時間帯はいつか分からない。自由記述にもあるように、夜間1人で子どもと向き合っているときに不安になり電話をしたくなることも十分考えられる。母親は誰かに心配事を聞いてもらうだけで安心して自分で解決する力があると考えられる。保育の経験がありカウンセリング技術を持った人が対応するような24時間対応のシステムはできないだろうか。

健康診査はほとんどの子どもが受診している。健診の機会に他の親子と触れ合う機会を設けてほしいとの意見がある。時間制約やスペースの問題があるが、各健診に保育士を配置して待合の時間または終了後に、他の親子とのふれあいを促す、子育て支援の周知や子どもの遊び方の指導を行うなどの活動も考えられる。

新生児訪問は0歳児をもつ母親には子育ての方法を学ぶ貴重な機会となっている。0歳児を持つ母親は外出の機会が少なく閉塞的になるので、訪問は1回だけではなく、状況や希望に応じて、複数回実施することも考えられる。

金沢市内の0,1歳児の子どもがいる家庭の80%以上は核家族である。もう既に言われていることであるが、夫の帰宅時間を早める、意識を変えていくなどの、夫の協力が必要である。また就業している母親にとってはフレックスタイムの導入、勤務時間の短縮、職場の意識の改革などワークライフバランスの取り組みが必要となる。

がんばって子育てをしている0,1歳児をもつ母親を支援していくためには、行政の支援だけでは限界があるであろう。地域の実情をよく把握し福祉活動を支援している民生委員・児童委員（以下、民生委員）の力を使うことが必要と考えられる。金沢市では民生委員は高齢者福祉の対応に追われて子ども支援にまで手が回らない現状の様である。しかし地域の現状をよく知っている民生委員がまず町内の子育て家庭の把握を行い、近隣の公民館等で行われる高齢者支援と合わせて子育て支援の場を作ることにはできないだろうか。目的は母親が孤立しないで子育てを地域になかで子育てを行っているという安心感を持ってもらうことにある。

金沢市の子育て支援は充実しているといえる。今後は財政的な負担をかけずに、現在のシステムに工夫を加え、地域の力を活用して支援を行うことが重要となるであろう。

注

ⁱ 北川節子：金沢市の子育て支援に関する実態調査（1）－子育てサロンを利用する核家族で乳児を持つ母親からの聞き取り－；金沢星稜大学人間科学研究，第2巻第2号，平成21年3月 p23～29

ⁱⁱ 北川節子：金沢市の子育て支援に関する実態調査（2）－0,1歳児をもつ母親の属性及び情報収集と支援に利用－；金沢星稜大学人間科学研究，第3巻第1号，平成21年9月 p21～28

ⁱⁱⁱ <http://www.mhlw.jp/topics/2009/03/tp0327-1.html>「政府広報『妊婦健診や出産の経済的負担が軽減されます！』について」